

講演要旨

「最近の金融・経済情勢と金融政策運営について」

日本銀行総裁 白川 方明氏

今回の「資本市場を考える会」では、日本銀行の白川方明総裁をお招きし、「最近の金融・経済情勢と金融政策運営について」と題して、お話を伺いました。

白川総裁からは、まず冒頭に、今回の講演は、目先の話というよりは、内外の経済や政策運営を考えていく上でどういうことに内外の政策当局は頭を悩ましているのかを中心に話を進めていきたいというご発言がありました。海外経済については、リーマンショック後の欧米の景気情勢について、バブル崩壊後のバランスシート調整を抱える下では、景気回復に時間がかかることをいくつかのグラフを用いて具体的に示されました。その上で、政府債務問題をはじめとするバランスシート調整を着実に進めるとともに、併せて構造的な政策にしっかりと取り組む必要性について強調されました。日本経済については、東日本震災直後の短期的な供給制約に起因した問題は回復の方向に向かっているものの、先行きについては①電力供給の見通し、②世界経済の動向、③急速な円高の進行など不確実性が増しているという認識を示された上で、金融政策運営については、昨秋に包括緩和政策を開始し、本年3月、8月にはリスク性資産も含む資産買入等の基金の積み増しを行ったところであり、この基金を通じて資金供給を行っていくことを進めているという説明がありました。日本経済の課題については、日本銀行としてもデフレから脱却し、物価安定のもとでの持続的成長経路にできるだけ早く復帰したいと述べられた上で、デフレは日本経済の直面するより根源的な問題の反映で、問題の本質は日本経済の中長期的な成長力の低下にあり、従って、どうやって成長力を高め、持続可能性のある経済にしていくのが最大の課題であると指摘されました。具体的には、労働参加率及び労働生産性を高める必要性のほか、中長期的な財政バランスの改善に取り組むことが大切であるということをお話いただくなど、示唆に富む有意義なお話を聞かせていただきました。